

目次

本文篇

凡例	三
雨月物語序	九
卷之一	
白	二
菊花の約	三六
卷之二	
浅茅が宿	四三
夢応の鯉魚	五九
卷之三	
仏法僧	六九
吉備津の釜	八二
卷之四	
蛇性の姪	九九
卷之五	
青頭巾	一三五
貧福論	一四四

本文篇

索引篇

凡例

あ	……	一七一	い	……	一七九	う	……	一七七	え	……	一五九	お	……	一五九
か	……	一五九	き	……	二〇九	く	……	二二三	け	……	二二七	こ	……	二二八
さ	……	二三四	し	……	二三九	す	……	二五三	せ	……	二四〇	そ	……	二四三
た	……	二四四	ち	……	二五三	つ	……	二五四	て	……	二五六	と	……	二六一
な	……	二六七	に	……	二五四	ぬ	……	二七七	ね	……	二七八	の	……	二七九
は	……	二八三	ひ	……	二八九	ふ	……	二九二	へ	……	二九六	ほ	……	二九七
ま	……	二九六	み	……	三〇三	む	……	三〇七	め	……	三〇八	も	……	三三〇
や	……	三二三	り	……	三三二	ゆ	……	三三六	れ	……	三三三	よ	……	三三八
ら	……	三三〇	る	……	三三三				ろ	……	三三三	ろ	……	三三三
わ	……	三三三	ゐ	……	三三五				を	……	三三六			
ん	……	三三〇												
跋	……													

(羅子は水滸を撰し、而して三世啞児を生み、紫媛は源語を著はし、而して一旦悪趣に墮つる者、蓋し業の為に偈る所耳。然り而して其の文を觀るに、各々奇態を奮ひ、吟哢真に逼り、低昂宛転、読者の心氣をして洞越たらしむる也。事実を千古に鑑せらるべし。余適鼓腹の閑話有り、口を衝きて吐き出す。雉雄き龍戦ふ。自ら以て杜撰と為す。則ち之を摘読する者は、固より当に信と謂はざるべき也。豈醜唇平鼻の報を求む可けん哉。明和戊子の晩春、雨霽れ月朦朧の夜、窗下に編成し、以て梓氏に昇ふ。題して雨月物語と曰ふ、と云ふ。剪枝畸人書す。)

後子
人虚

三遊
味戲

雨月物語卷之一

白 峯

- 3 あふ坂の関守にゆるされてより。焮こし山の黄葉見過しが
 たく。濱千鳥の跡ふみつくる鳴海がた。不盡の高嶺の煙。浮嶋
 5 がはら。清見が関。大礪小いその浦く。むらさき艶ふ武蔵野
 の原塩竈の和たる朝けしき。象泻の蚕が管や。佐野の
 舟梁。木曾の棧橋。心のとまらぬかたぞなきに。猶西の国の
 哥枕見まほしとて。仁安三年の秋は。葭がちる難波を經
 て。須磨明石の浦ふく風を身にしめつも。行く讚岐の真
 10 尾坂の林といふにしばらく筈を植む。草枕はるけき旅路
 の労にもあらで。観念修行の便せし庵なりけり。この里

あきら・む(察)

一め(未然) 白五⑤ 貧四①

一め(連用) 菊九⑩ 青二④ 貧二④⑧

一四①

あき・る(呆目)

一れ(連用) 浅四⑨ 蛇三⑫(一)にあき

れある) 青三④③

あきれまじ・ふ(呆惑)

一ふ(連体) 蛇二六⑩

あきれ・ある(呆居)

一る(連用) 蛇二④①

あ¹く(悪) 貧四⑧ ↓ぜんあく

あ²く(飽)

一か(未然) 蛇二〇⑪ 貧二④③

あ³く(明)

一き(連用) 吉八③(一)唐紙すこし明たる

間より」とあり、下二段連用形の「あ

け」ともとれる)

あ⁴く(明 曙)

一け(連用) 浅三① 吉八⑤ 八五⑨ 八七④

⑩(四段連用形の「あき」とも) 八六②

蛇三⑩ 二七⑦ 青三④① 貧二⑤④

一くる(連体) 浅四⑧ 吉八⑥ 八七②

蛇六⑨ 一〇三⑤ 二八⑧

一くれ(已然) 吉六④ 蛇三②

↓ひきあく

あ・ぐ(放 結 誉 揚 点)

一げ(未然) 青三⑥

一げ(連用) 菊六⑩ 浅四⑨ 四⑩ 夢

至① 五⑥ 仏六⑧ 六⑨ 七① 蛇六

⑨ 二六⑦ 貧四⑥

一ぐる(連体) 仏六③

↓ぎんじあく・つりあく・はりあく・

まうしあく・まきあく

あくいん(悪因) 青三⑤①

あくぎやくづか(悪逆塚) 仏七⑫

あくげふ(悪業) 仏七⑦(ふりがな)あくぎ

やう)

あくごふ(悪業) 白三④ 青三⑤⑤ 貧二⑥

⑧(三例ともふりがな)あくごう)

あくしん(悪心) 白二⑫

あくるひ(明る日) 菊二⑪

あけ(朱) 白三⑨(一)をそぎたる龍顔

あけき・る(明切)

一ら(未然) 仏七⑩

あけのかき(朱の垣) 夢五⑩

あけのひ(明の日) 蛇二④⑤

あけはな・す(明放)

一し(連用) 吉七⑥

あけぼの(曙) 仏六⑧

あけゆ・く(明行)

一く(終止) 蛇六⑥

一く(連体) 白五③ 浅四⑫ 仏七⑨

蛇二①

あけわた・る(明渡)

一り(連用) 吉六⑨

あこ(網子) 蛇九⑥

あこども(網子共)(「ども」は接尾語) 蛇九

⑧

あさ(旦) 菊六⑥

あさ(麻) 浅四⑥①

あさげ(朝食) 蛇九⑪

あさげしき(朝景色) 白二⑥

あさごろも(麻衣) 浅四②

あさ・し(浅)

一き(連体) 蛇七①(一)心)

あさぢがはら(浅茅が原) 浅四⑦

あさづまぶね(旦妻船) 夢五⑩

あさつゆ(朝露) 浅四⑤

あさとり(朝鳥) 白二⑤③

あさひ(朝日) 青三④① 二七⑫

あさびらき(朝開) 菊三⑨

あさまし(浅)

一く(連用) 白三⑫ 夢五④ 吉七⑧

八六① 蛇二〇⑦ 三⑩ 青三④⑦

一う(音便) 蛇二六⑨

一し(終止) 蛇三〇⑪ 青三④⑫

一き(連体) 白五④ 一四⑦ 浅三⑥⑪ 四③

吉七⑩ 蛇二② 一〇三② 二② 青三③

⑧⑩ 一三⑤⑤ 貧二④⑥⑪

あさまし(浅) 浅四⑪(一)よ)

あさみわら・ふ(嘲笑)

一ひ(連用) 蛇二①⑦

あさむ・く(欺)

一か(未然) 吉八⑤

一く(連体) 菊二六①

あさやか(鮮)

一なる(連体) 仏六②

あさゆふ(朝夕) 旦夕) 吉七⑨ 七③(一)の

奴) 八四⑪

あざらけ(鮮(名詞) 夢五⑤(一)を喰ふ)

あざらけき(鮮魚(名詞) 菊三⑤(一)を宰

て)

あざらけ・し(鮮)

一き(連体) 夢五⑥ 仏六⑧(一)鮮き物

とあり、「け」は補説)

あさ・る(姿)

一り(連用) 夢五②(一)得ずして)

あし(足 脚) 白二⑪ 菊二④④ 三⑧ 三⑨

浅四⑩ 四⑫ 仏六⑨⑪ 吉七⑪ 蛇

二九① ↓てあし

あし(凶 否 悪)

一く(連用) 浅三⑫(こち一)

一かり(連用) 貧二④⑦③

一き(連体) 吉七⑤④ 貧二⑥⑥(脩否)

一けれ(已然) 蛇六③

あしおと(足音) 仏六⑫ 六④ ↓あおと

あしかがぞめ(足利染) 浅三⑧

あしがちる(腹が散る)(枕詞) 白二⑧

あしきいき(毒気) 蛇二九⑥

あしきかみ(邪神) 蛇三①⑨ 二四⑪

あしきさが(凶祥) 吉七③ 八⑤

あした(朝) 浅四⑨ 貧二④④(一)に晡に

あした・す(晨)

一する(連体) 白六⑨(牝鶏の一)

あしま(芦間) 夢五⑪ 五⑩

あじやり(阿闍梨) 青二七②

あしゆらども(阿修羅共)(「ども」は接尾語)

仏七②

あす(明日 翌 明) 菊三⑧ 三⑤⑥ 二六①

浅三⑩ 三⑥ 四② 仏六① 蛇六⑤

一〇三⑤

あ・す(酒)

一せ(連用) 仏六⑩ 蛇二④⑪

あすか(飛鳥) 蛇九⑤(一)の神秀倉

あそび(遊 遊躍) 夢五⑦⑪

あそびもの(妓女) 吉七⑩ ↓うかれめ

あそ・ぶ(遊 遊躍)

一ば(未然) 夢五⑪

一び(連用) 夢五③ 貧二④⑧

一ぶ(終止) 夢五② 五① 蛇六⑥ 二二

⑨

一ぶ(連体) 夢四⑪ 貧三⑤⑤ 二五⑨

一べ(已然) 夢五⑤

あそん(朝臣) ↓しげうちあそん

あた(敵 怨敵 讐 仇) 白八⑧ 九⑥⑧ 二

⑪ 二②⑧ 三⑤ 吉七⑨ 蛇三③④

貧三⑤⑩

あだ(徒)

一なら(未然) 蛇九③

一なる(連体) 吉七⑫ 蛇九⑫

あだあだし(徒々)

一き(連体) 蛇三⑥